

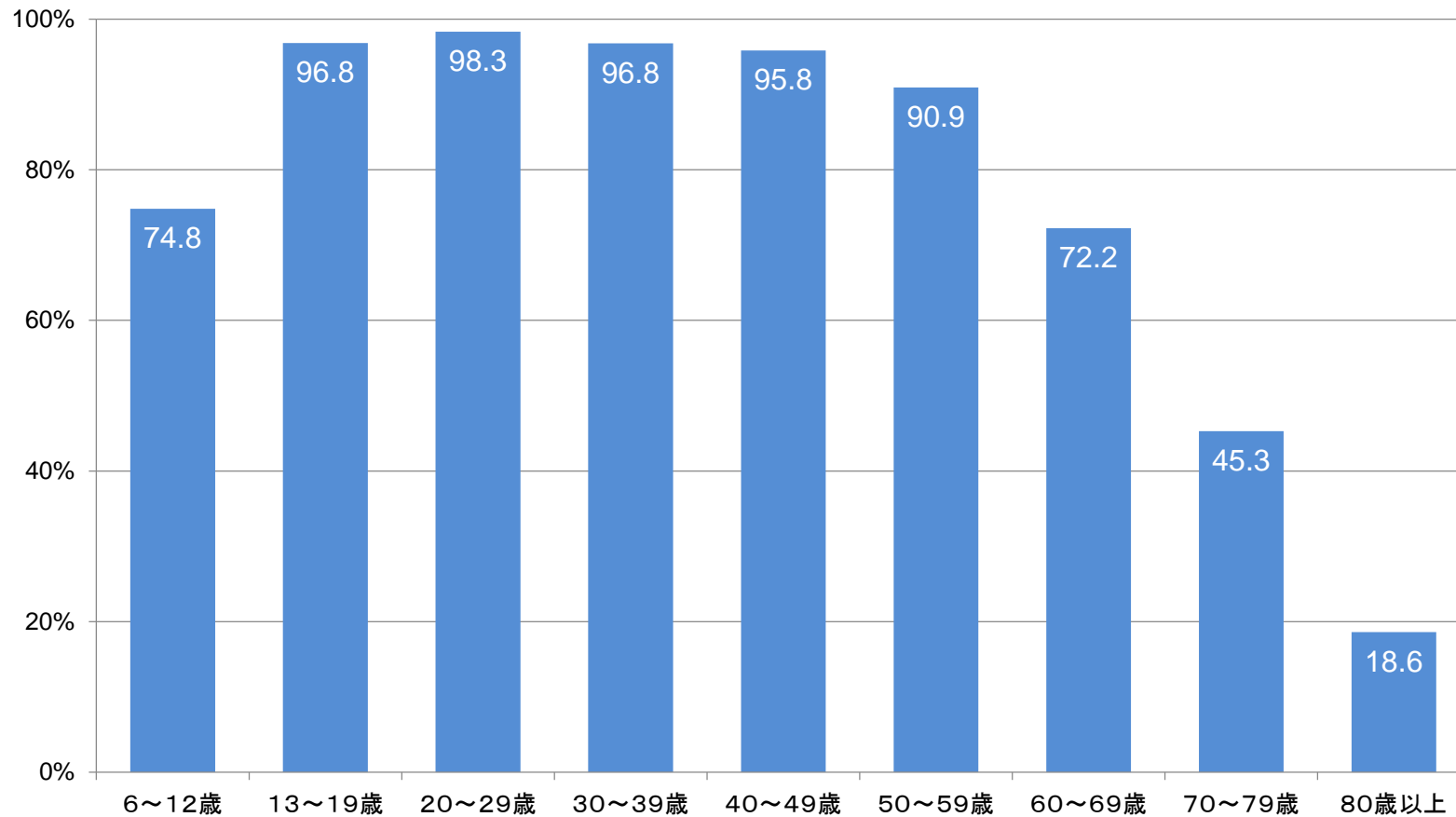
平成29年通信利用動向調査 ポイント

※タイトルに（世帯）と付した項目は世帯調査、（企業）と付した項目は企業調査、（個人）と付した項目は世帯構成員調査結果に基づく。
※P.3「情報通信機器の保有状況の推移（世帯）」のグラフを除き、無回答を除いている。

1 インターネットの利用動向①

年齢階層別インターネット利用状況(個人)

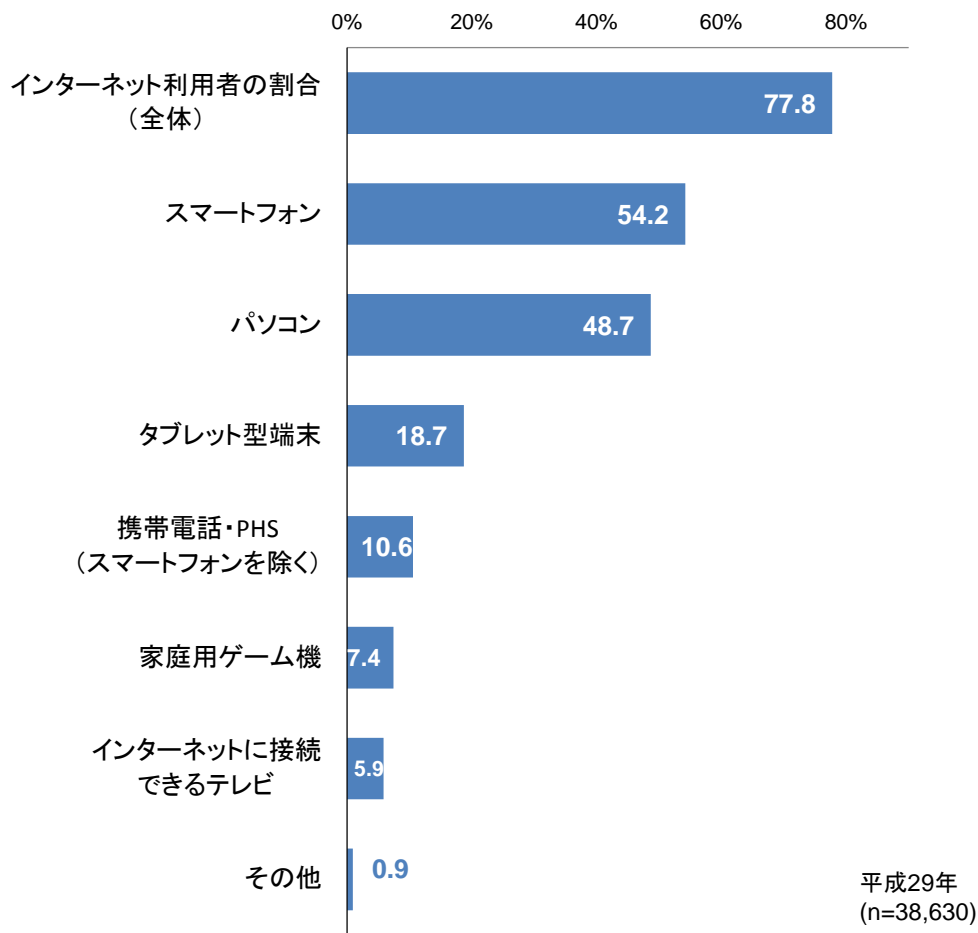
13歳～59歳の年齢層でインターネット利用が9割を超えている。



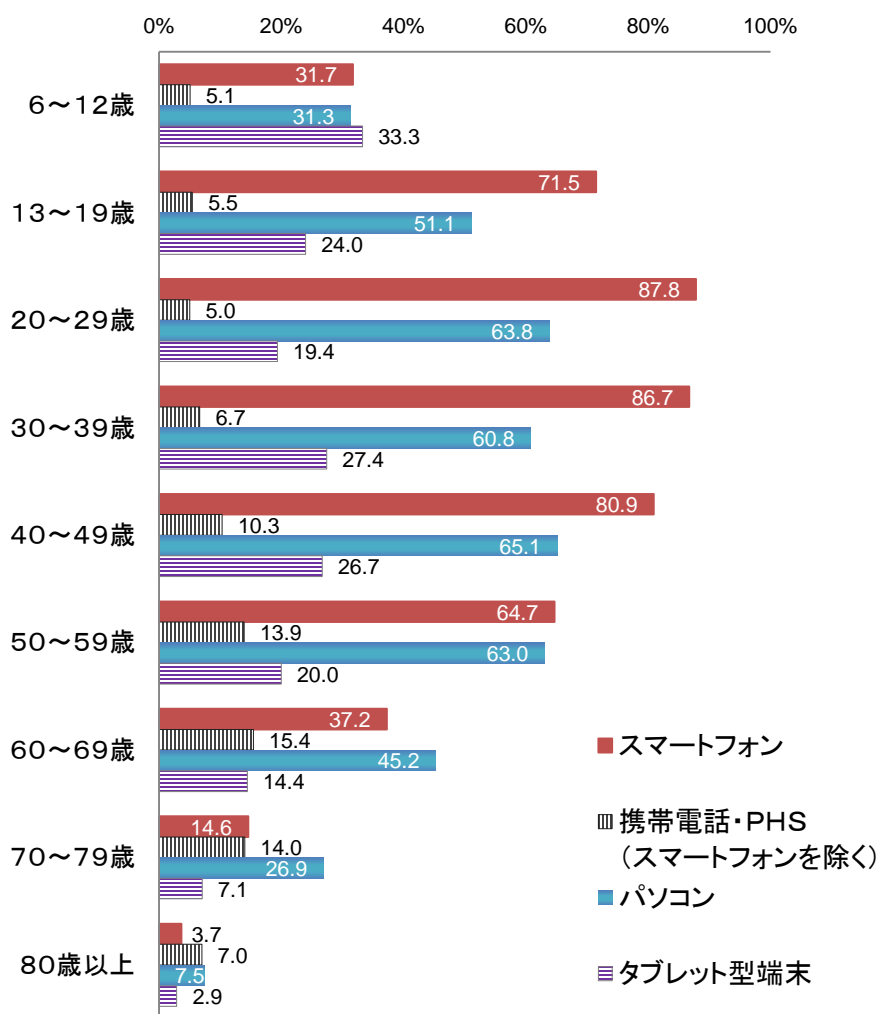
2 インターネットの利用動向②

個人のインターネット利用機器に関しては、スマートフォンがパソコンを上回っている。
ただし、年代別にみると、60歳以上はパソコンの利用がスマートフォンを上回っている。

インターネット利用機器の状況(個人)



年齢階層別インターネット利用機器の状況(個人)



※ 当該比率は世帯構成員(個人)のインターネットの利用割合を端末別・年齢階層別に示したものの。

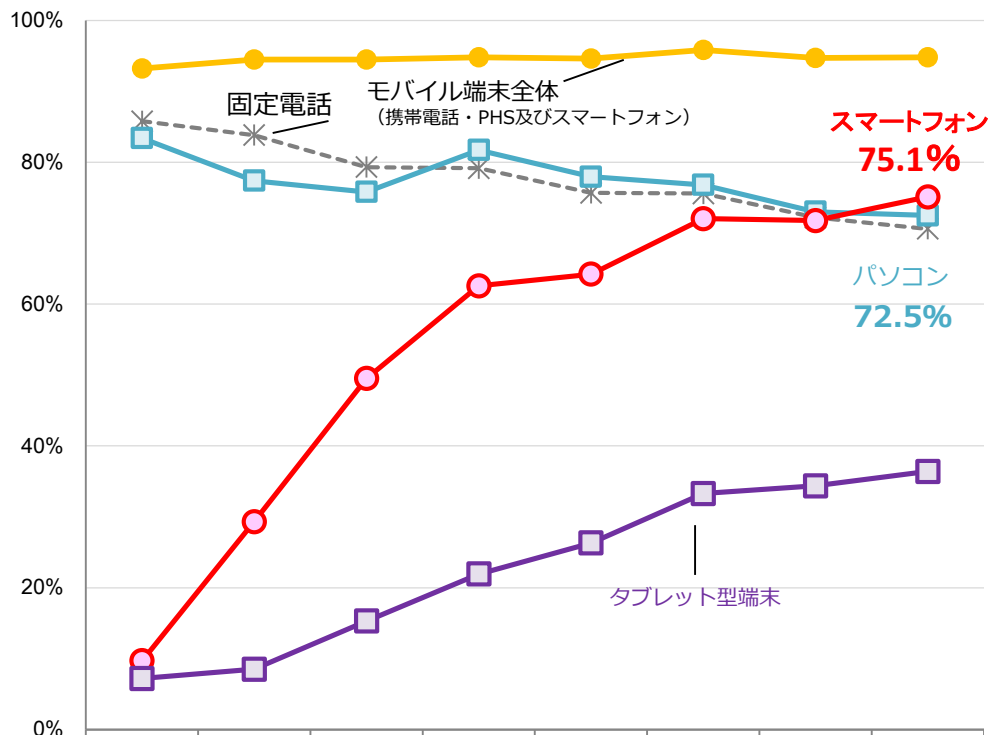
※ インターネットに接続できるテレビ、家庭用ゲーム機、その他の機器を除く。

3 情報通信機器の普及状況

主な情報通信機器の保有状況(世帯)

(平成22年～平成29年)

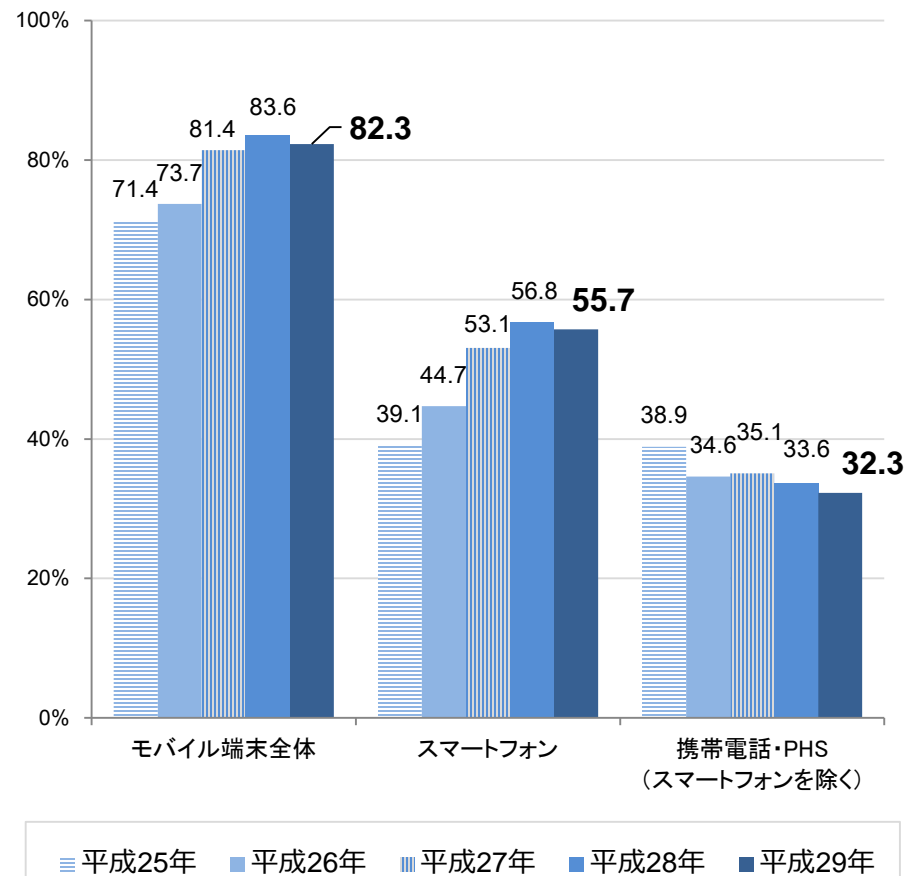
スマートフォンを保有している世帯の割合が、固定電話・パソコンを保有している世帯の割合を上回った。



モバイル端末の保有状況(個人)

(平成25年～平成29年)

スマートフォンの保有状況は増加傾向にある一方、携帯電話・PHS(スマートフォンを除く)の保有状況は減少傾向にある。

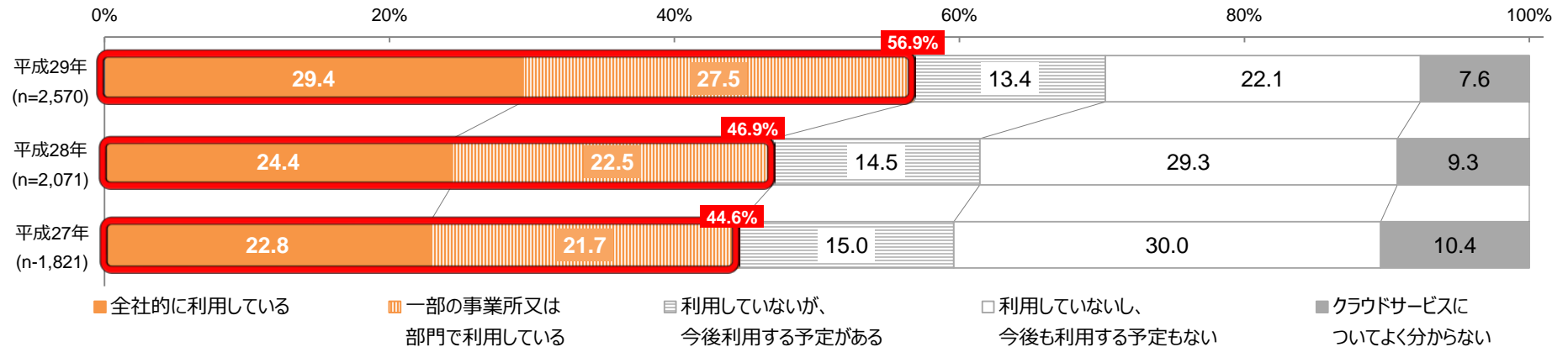


※当該比率は、各年の世帯全体における各情報通信機器の保有割合を示す。

4 クラウドサービスの利用状況(企業)

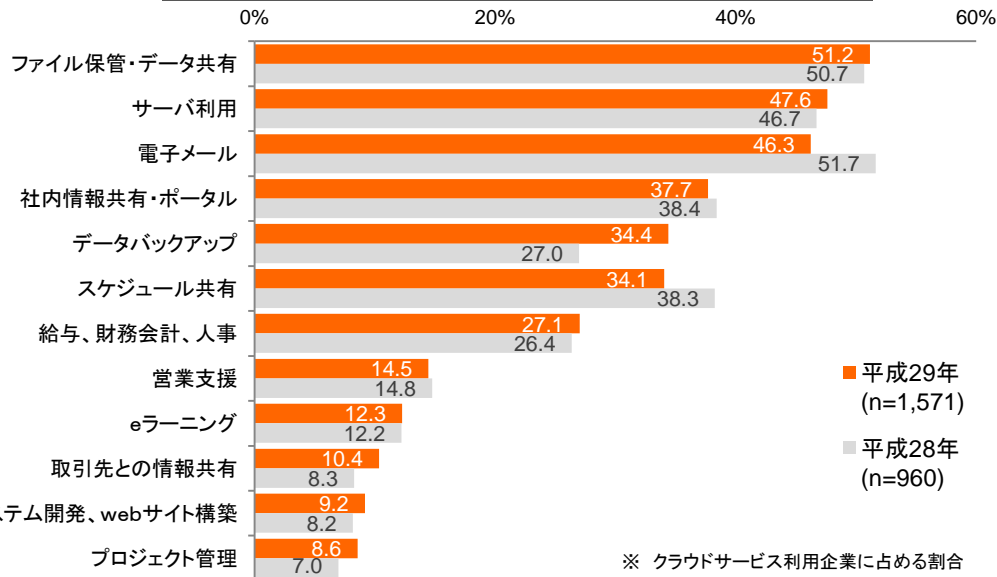
クラウドサービスの利用状況

クラウドサービスを利用している企業の割合は上昇傾向が続き、今回調査対象の半数を超えた。
 利用目的をみると、営業支援やプロジェクト管理などの高度な利用は低水準にとどまる。
 効果についてみると、「非常に効果があった」又は「ある程度効果があった」と回答した企業が利用企業の8割を超えている。



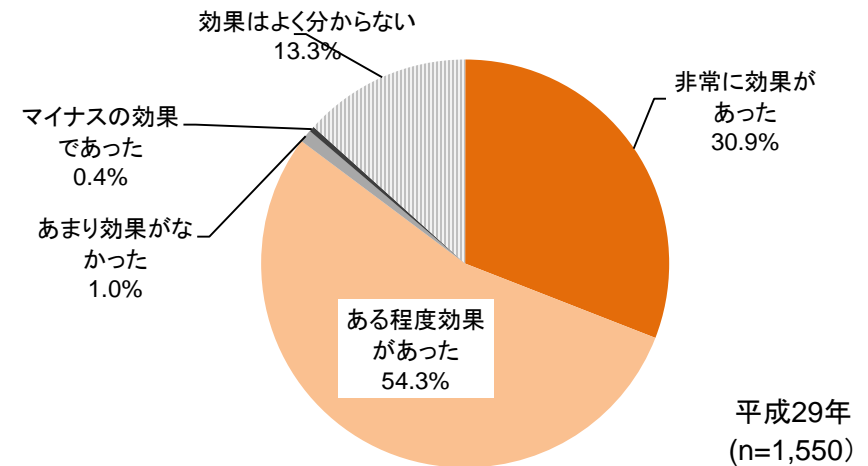
※ 平成29年調査では、情報通信業を独立した産業として集計し、全体に占める情報通信業の比率も前回調査に比べ上昇している。経年比較にあたっては留意が必要。(前回平成28年調査までは、情報通信業はサービス業・その他の内数)

クラウドサービスの利用目的



※ クラウドサービス利用企業に占める割合

クラウドサービスの効果

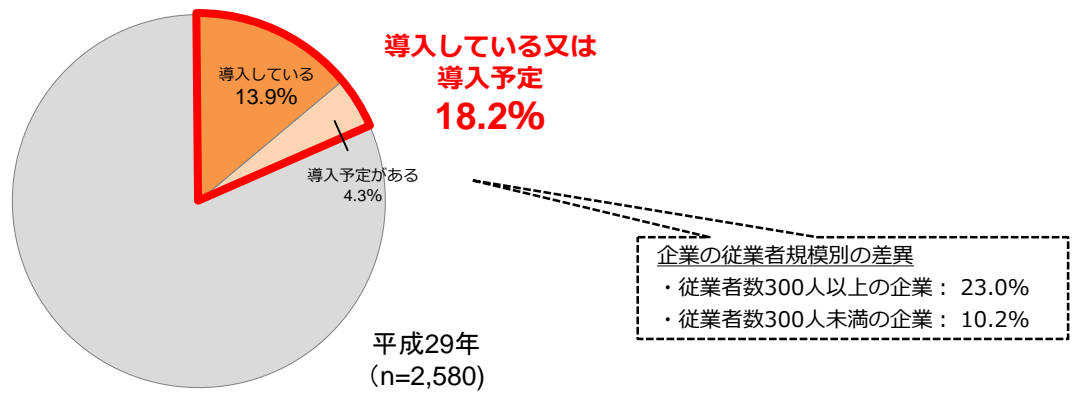


※ クラウドサービス利用企業に占める割合

5 テレワークの導入状況等

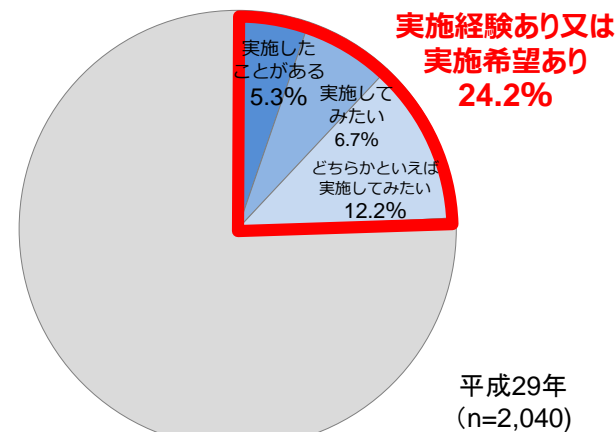
テレワークの導入状況(企業)

企業において、テレワークを導入している又は具体的な導入予定があるのは、18.2%。



テレワークの実施状況(個人)

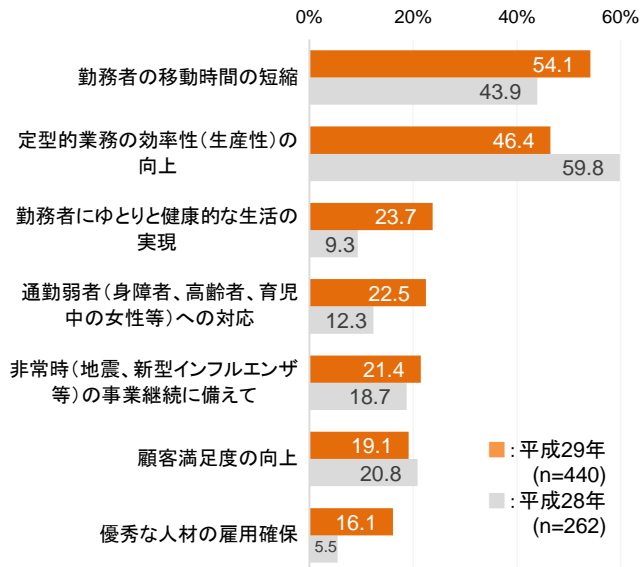
企業等に勤める15歳以上の個人のうち、過去1年間にテレワークの実施経験がある人及び実施してみたいと考えている人は、24.2%。



テレワークの導入目的(企業)

※テレワーク導入企業に占める割合

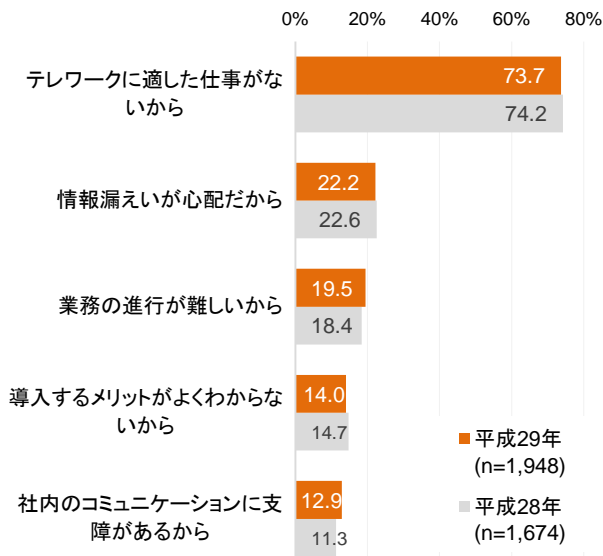
テレワークの導入目的は、「勤務者の移動時間の短縮」「勤務者にゆとりと健康的な生活の実現」等の割合が上昇。



テレワークを導入しない理由(企業)

※テレワーク未実施で導入予定もない企業に占める割合

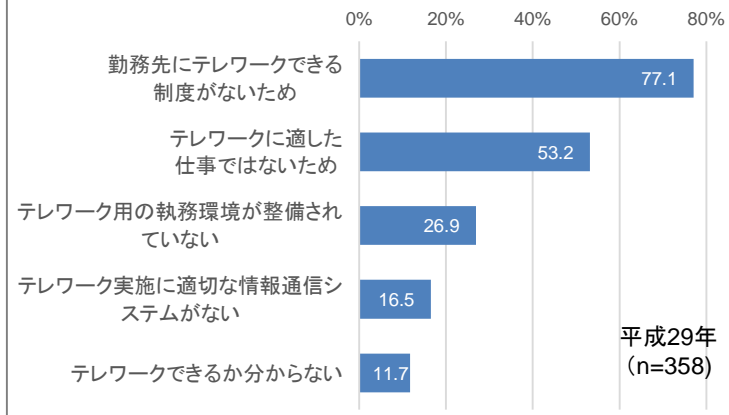
導入していない理由として「テレワークに適した仕事がないから」を回答したのは約7割。



テレワーク未実施理由(個人)

※テレワーク実施希望者に占める割合

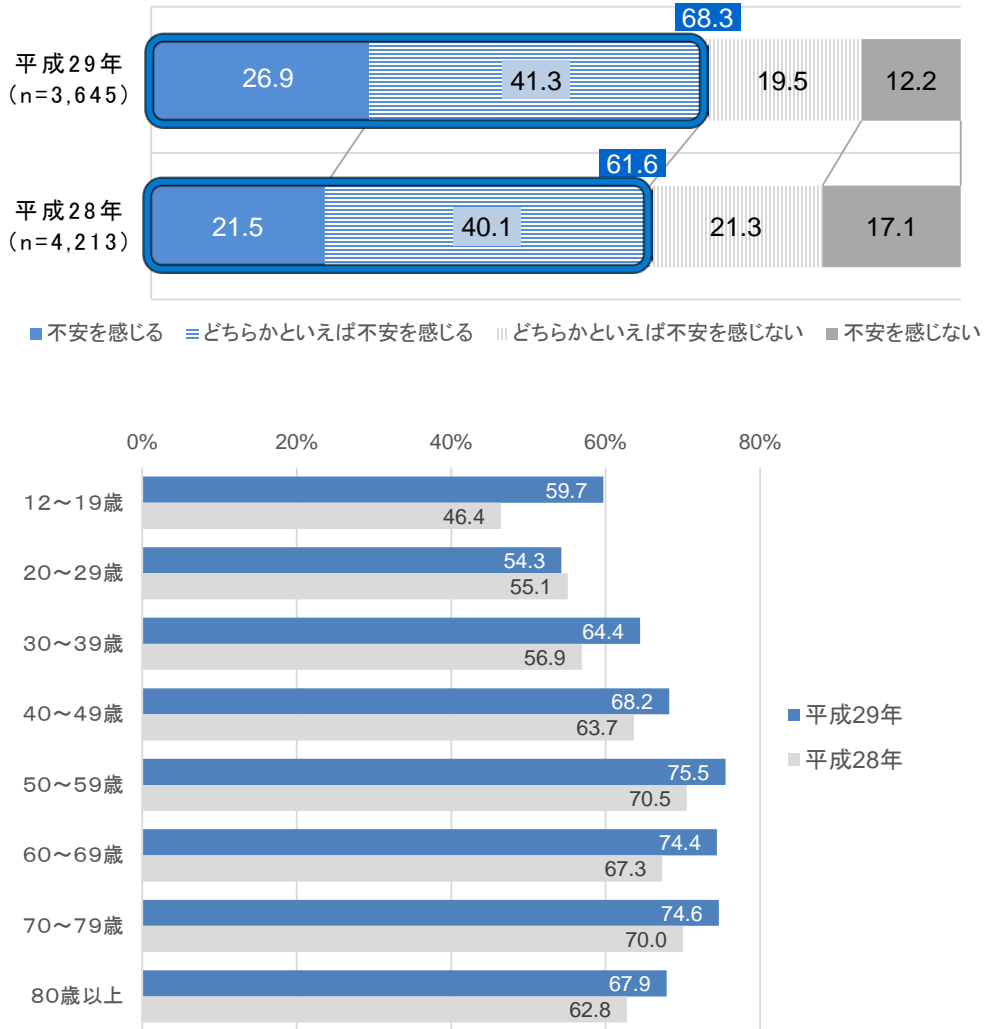
テレワーク実施意向のある個人で、テレワークを実施できない理由は、「制度がないため」が多い。



6 インターネット利用上の不安

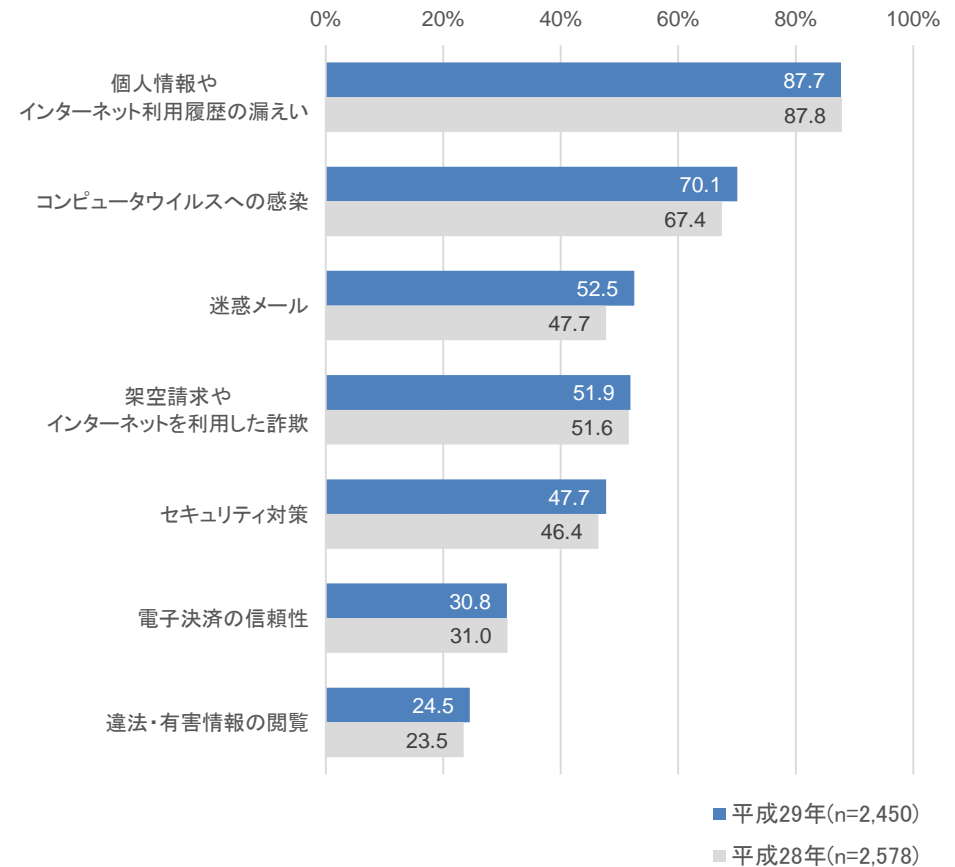
インターネット利用時における不安(個人)

12歳以上のインターネット利用者の約7割がインターネット利用時に何らかの不安を感じており、前回と比較し6.6ポイント上昇。
年代別では、20歳代以外の年齢層で不安を感じる割合が高い。



インターネット利用における不安の内容(個人)

不安の具体的な内容は、「個人情報やインターネット利用履歴の漏えい」が87.7%と個人情報に対する懸念が相当に高い。



(注) インターネットを利用して「不安を感じる」又は「どちらかといえば不安を感じる」と回答した個人に占める割合